

Music

ニール・ヤングとスティーヴン・スティルスの 『ロング・メイ・ユー・ラン』

Text: George Cockle
文/ジョージ・カックル



昨年のことになるが、JR横浜駅西口の近くにあるライブハウス、サムズアップに友達のライブを見に行った。その友達とはマミこと、プロロングボーダーの河村正美だ。マミには10年ほど前にウイングナットの『アート・オブ・ロングボーディング』というサーフィンビデオを友人と作った時、出演してもらったことがある。それから何年か後には、彼のCD『鶴沼』もプロデュースするチャンスがあった。(残念ながら、そのCDは今廃盤になっているようで手に入らない。もし見かけたら、是非買って聴いてみてください)

その日のライブにはソロではなく、彼が今組んでいるユニット、マミマロとして出演していた。メンバーはギターボーカルの河村正美と端山龍呂、パーカッションにはあの有名なロックドラマーの上原ユカリ。そのライブは音楽だけではなく、サーフィン映像も加えたマルチメディア・イベントだった。サーフィンスクール的なアドバイスを観客に伝えながら、音楽でつなげていた。それは素晴らしいイベントで、ライブ後にはスポンサーからのプレゼントもたくさんあった。彼らのオリジナル、インスト曲、そ

してカバーで盛り上がったあと、僕が知らない曲を歌い始めた。メロディーはさわやかなニール・ヤング風だったけど、僕はその曲を聴いたことがなかった。マミが歌っている間、聞き取れる歌詞をiPhoneでグーグルしてみたら、スティールズ・ヤング・バンドの『ロング・メイ・ユー・ラン』という名の曲だとわかった。この曲はニール・ヤングとスティーヴン・スティルスの二人で出したアルバムのタイトルトラックだった。

マミの歌を聴きながら歌詞を読むと、サーフィンことやビーチ・ボーイズのことも歌っているのがわかった。その後、家に戻って詳しく調べてみた。もちろんニール・ヤングとスティーヴン・スティルズはソロでも売れていて、彼らはバッファロー・スプリングフィールドとクロスビー・スティールズ・ナッシュ・アンド・ヤングでもバンドを組んでいたことがあったけど、二人だけのアルバムはこの『ロング・メイ・ユー・ラン』一枚。アルバムにはトータルで9曲が入っている。ニールが5曲、そして、スティーヴンが4曲。不思議なことに、タイトル曲を含めて、5曲は海やオーシャンリゾート、セーリング、サーフィン、ビーチ・ボーイズがテーマにな

っている。このアルバムはカラパナやシシリオ・アンド・カボノが売っていた1976年に発売されていて、まるで、サーフロックと言ってもおかしくないと思っただけ。海のテイストが満載。どう見ても、この二人はサーフィンをするようには見えないけど、海でまったりして聴くにはパーフェクトなアルバムなんだ。

西海岸の音楽が大好きな僕にとって、このアルバムを知らなかったことは、今でも謎だ。横浜でマミのライブを2011年に見て、そこでこの1976年に発売された曲『ロング・メイ・ユー・ラン』を初めて聴くなんて不思議だよ。そしてアルバムを買い、今は僕のプレイリストの中ではヘビーローテーションの一曲になっている。人生にはいろんな出会いがある。これからも耳を開いて、心を開いて出かけよう。そしてもう一言、マミありがとう!



ジョージ・カックル ● 60～70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴38年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com